

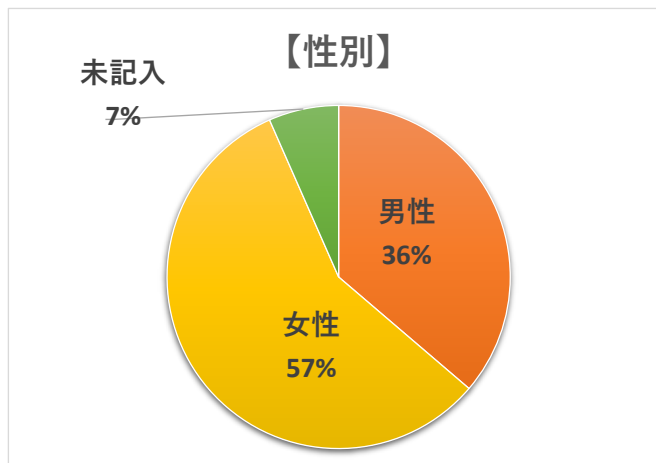
令和元年10月5日開催 多職種連携合同研修会アンケート

参加人数：121名 アンケート回収：91名（回収率：75%）

1. 下記についてお尋ねいたします。

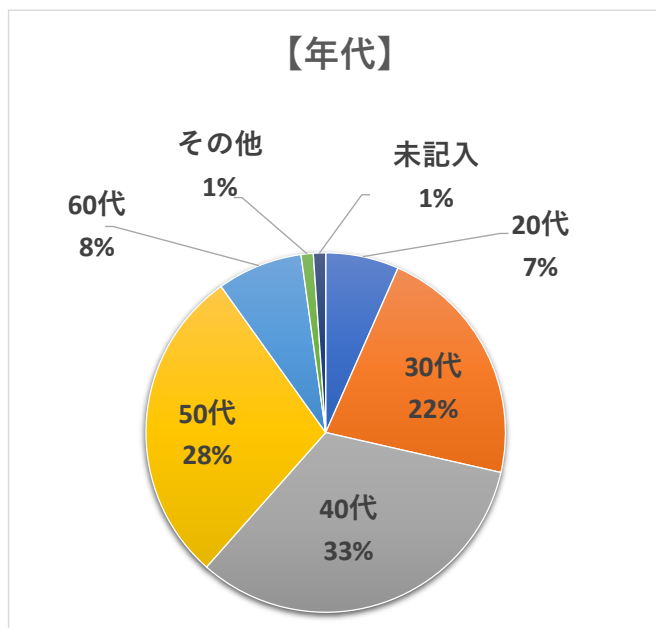
性別

男性	33名
女性	52名
未記入	6名
計	91名



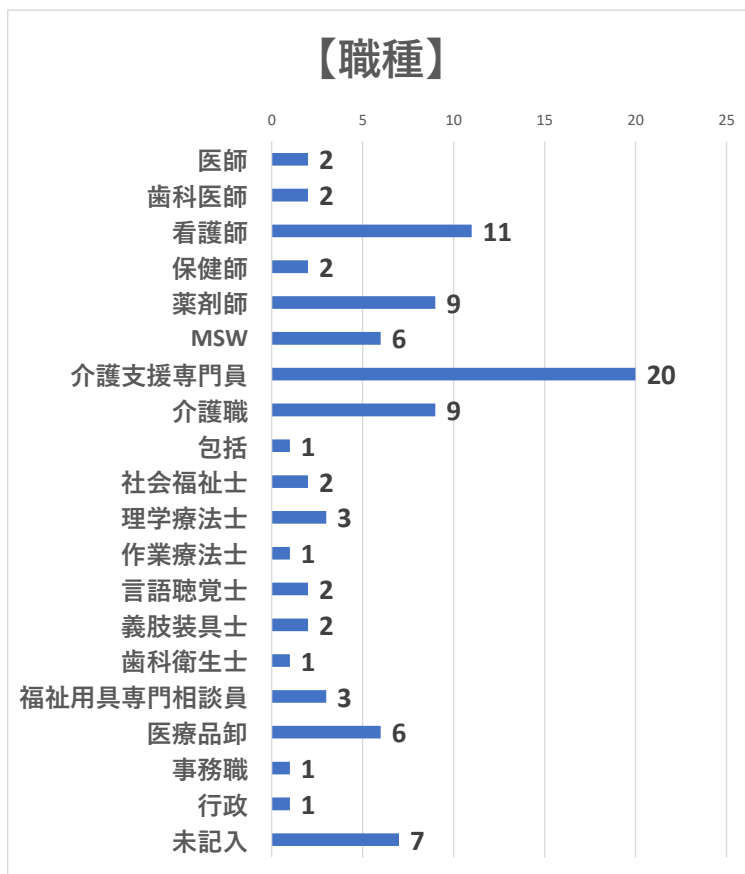
年代

20代	6名
30代	20名
40代	30名
50代	26名
60代	7名
その他	1名
未記入	1名
計	91名



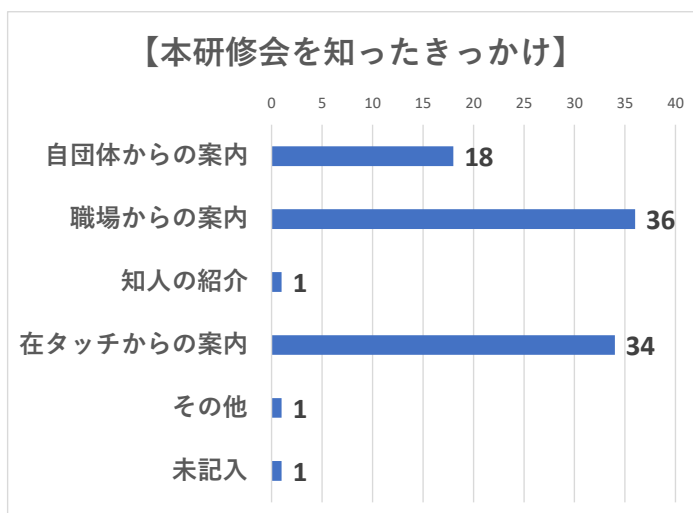
職種

医師	2名
歯科医師	2名
看護師	11名
保健師	2名
薬剤師	9名
MSW	6名
介護支援専門員	20名
介護職	9名
包括	1名
社会福祉士	2名
理学療法士	3名
作業療法士	1名
言語聴覚士	2名
義肢装具士	2名
歯科衛生士	1名
福祉用具専門相談員	3名
医療品卸	6名
事務職	1名
行政	1名
未記入	7名
計	91名



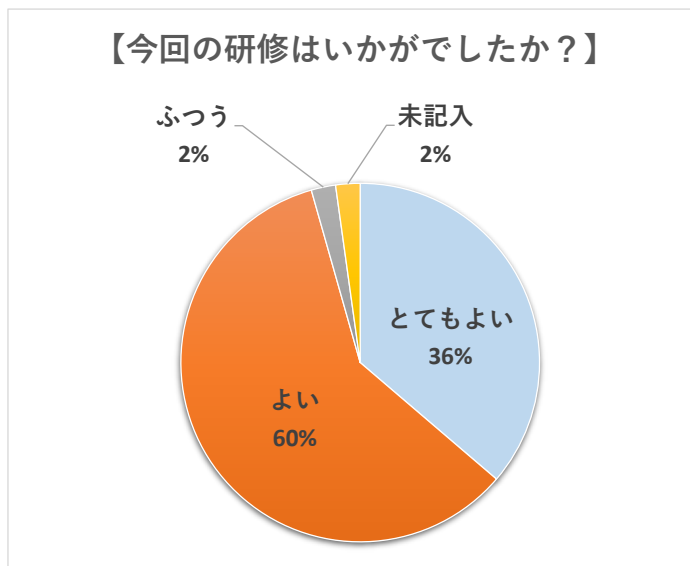
2. 本研修会を知ったきっかけを教えてください。

自団体からの案内	18名
職場からの案内	36名
知人の紹介	1名
在タッチからの案内	34名
その他	1名
未記入	1名
計	91名



3. 今回の研修はいかがでしたか？

とてもよい	33名
よい	54名
ふつう	2名
物足りない	0名
とても物足りない	0名
未記入	2名
計	91名

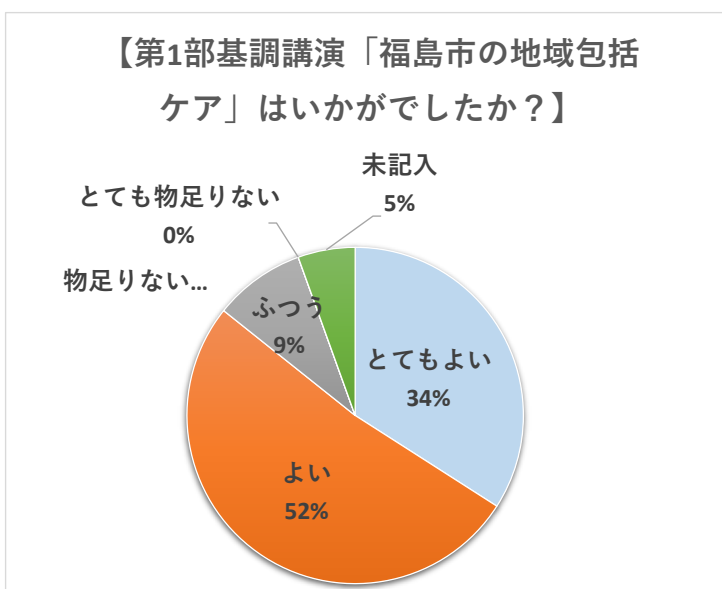


4. 本日、一番の「気づき」は何ですか？（アンケートより一部掲載）

- ・地域包括ケアは多職種の専門職が一つになって支援していく体制が求められていること。
- ・多職種連携の難しさ、特に夜間の医療との連携が大変なのだを知る事が出来た。
- ・患者さん一人に対して本当に色々な職種の方が関わっている事を体感することが出来た。
- ・どの職種もどの領域でも「尊厳」を大切にしていることには変わらないこと。
- ・一つの職種では生活をささえられないことを改めて実感した。
- ・患者さんの情報をなるべく多く共有することは、結果的にその患者さんのためになる。
- ・職種によって考える視点・捉える視点が違うと思った。目指すところは同じだが。
- ・関わるスタッフ間で支援者の思いを共有し、話し合いを重ねていくことが大切。
- ・佐藤ケアマネの「物語を伝える」というキーワードは、分かりやすく伝えやすい言葉であると思った。
- ・生活歴だけでなく成育歴をうかがいながら本人の意思を聞く姿勢の大切さを感じた。
- ・みんなで考えれば何とかなるかもしれない（多職種連携でサービス調整をすれば本人の意向にあった支援ができる！）
- ・普段知ることが無い職種(薬剤師・介護福祉士) の実際の活動が知れたこと。

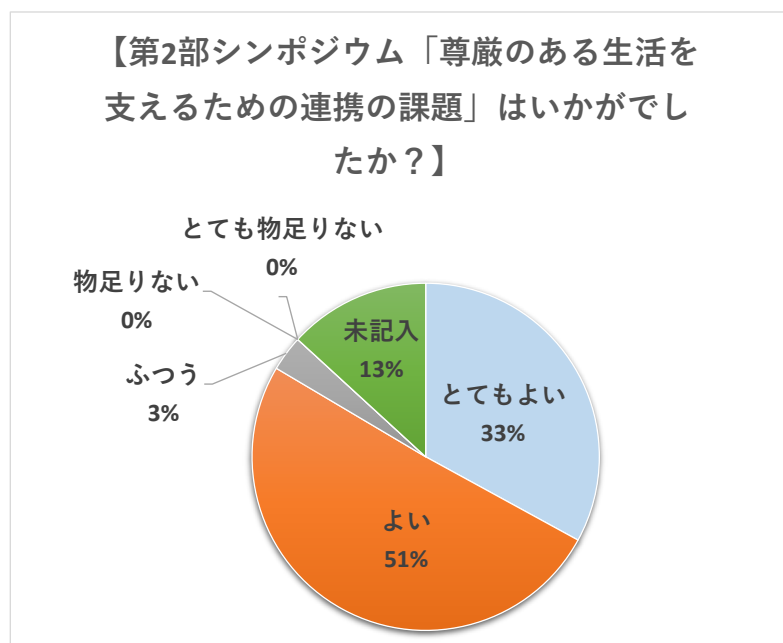
5. 第1部基調講演「福島市の地域包括ケア」はいかがでしたか？

とてもよい	31名
よい	47名
ふつう	8名
物足りない	0名
とても物足りない	0名
未記入	5名
計	91名



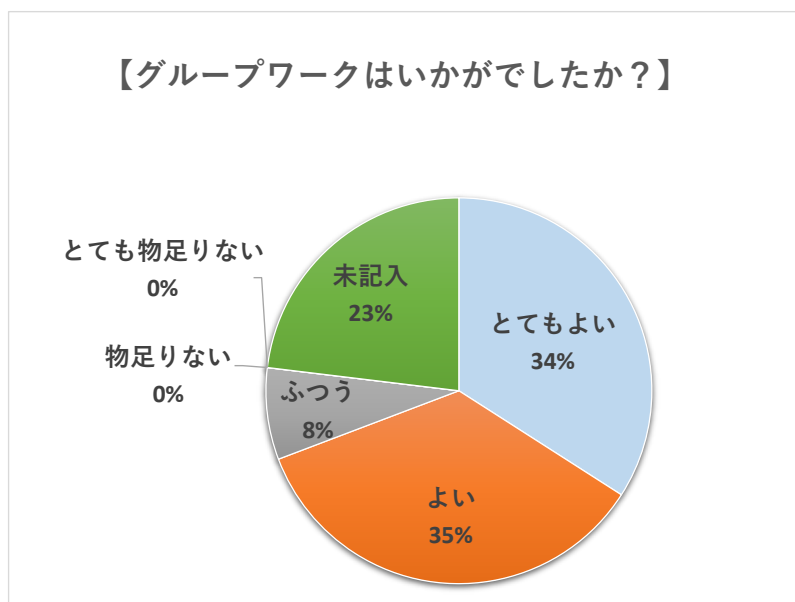
6. 第2部シンポジウム「尊厳のある生活を支えるための連携の課題」はいかがでしたか？

とてもよい	30名
よい	46名
ふつう	3名
物足りない	0名
とても物足りない	0名
未記入	12名
計	91名



7. グループワークはいかがでしたか？

とてもよい	31名
よい	32名
ふつう	7名
物足りない	0名
とても物足りない	0名
未記入	21名
計	91名



8. 今後の研修企画、ご意見・ご提案、実践の困りごと等（アンケートより一部掲載）

- ・市内の地域で取り組んでいる、資源、サービス等を共有したい。
- ・この会から実際に問題となっていることを解決する方法を考え、実践して行く、ケーススタディがあると良いと思う。
- ・「わたしの人生ノート」を使って話したい
- ・多職種が関わっている困難事例や困難克服を事例を通して共有できる勉強会があればと思います。
- ・本人の思いをくみ取り、多職種で連携をして生活を支えていく大切さを再確認する事が出来た。